

文芸 さくらがわ

俳句

〔桜川市岩瀬「秋」俳句会〕

御嶽の噴火すさまじ暮れの秋 小林 啓治
 月今宵惚ぶ人みな若きまま 萩原 勲彦
 小春空玻璃戸に伸ばす背の丸み 三代 みちよ
 台風来操作に迷ふ新車かな 入山 ひろ子
 しなやかに通る風あり零れ萩 細谷 充女
 今年また朝の散歩路曼珠沙華 若色 寿美女
 赤とんぼ風の峠で出あひけり 金田 とう女
 半音の音色の響き夜の秋 齋藤 みよ
 秋の暮れ飛行機雲の尾は長く 渡辺 千恵子
 蕎麦咲きて明るくなりぬ長寿村 菊地 すい
 間引き菜の寸の迷ひに夕鴉 萩原 きしの
 蓮の花見るだけで言ひ呼ばないで 永瀬 ちい(※)

〔茂山俳句会〕

足弱の夫に歩を和し秋日和 吉原 秀子
 転寝に月の明りや長き夜 田崎 信子
 亡き人の夢に覚めたる夜長かな 鈴木 ノブ子
 新そばを晒す清流峠茶屋 海老沢 幸子
 海女もぐる両足秋の空を蹴り 海老沢 静夫
 ひとつ家の部屋それぞれの夜長かな 鈴木 つぎ
 大家族今は二人の夜長かな 今井 繁子

短歌

〔桜川歌壇の会〕

容赦なく過ぐる月日や「秋思」ふと 宮本 芳江
 長き夜や踏切を行く貨車の音 宮本 立男
 一画は蕎麦の花咲く夕明り 松崎 いま
 長き夜や小さく丸き母の背 君島 真理子
 敬老日孫にパソコン教はれり 金子 弘毅
 長き夜の次々めくる唱歌集 吉原 京子
 手枕のしびれて覚めし夜長かな 植田 祥雲
 月蝕のやさしく照らす花野かな 笠倉 陽子
 敬老といふ日がありて有難し 大関 くに
 ピアス揺らす少女と遇へり花野道 皆川 一女
 天高し玉入れの玉ぶつかり合ふ 竹林 てる
 それぞれの秋ヘスクランブル交叉 飯山 昭

〔桜川歌壇の会〕

朝起きて空見上げては雲多き洗濯物に見入り 榎戸 栄子
 困惑 中沢 一紅
 漂泊の雲足早く西空へわれの行く手の迷いを 田沼 むめ
 揺らし 中沢 一紅
 大空に雲一つなき高速道爽竹桃の赤白映ゆる 中沢 一紅
 波一つなき湖をキャンバスにくっきり画かる 島 杜桃
 鱗雲かな 島 杜桃

俚謡

〔さくら俚謡会〕

朝霧に包まれ出でし散歩道いつもの視野は雲 篠崎 洋子
 海のごと 篠崎 洋子
 アルプスの峯々に似し白雲のたちまち崩れ遠 滝田 きく江
 雷を聞く 滝田 きく江
 視界ゼロの予報を無視し登りたる突如雲間に 篠崎 貞之
 槍ヶ岳見え 篠崎 貞之
 風の音梢ささやき鳥啼きて筑波の空に別れ雲 山下 孝平
 あり 山下 孝平
 棧窓下地球を離れ白雲布く朝日は赤く一線を 平塚 節子
 引く 平塚 節子
 秋空へ描いてみたい心の絵さいはてに雲一つ 皆川 米子
 なき空 皆川 米子
 雲間より飛行機一機西空へ爆音残し消えて行 中原 すみ子
 くなり 中原 すみ子
 いづくから流れて来しか雲一つ筑波の峰の上 黒田 青磁
 を動かす 黒田 青磁

〔さくら俚謡会〕

野菊手折りてふと見上げれば遠い雲間に筑波山 岩瀬 悦女
 季節先取り歳暮の品が並ぶスーパー目が肥える つく志 輝美
 自然感謝よ晩秋霜が旨い白菜醸す味 一木 みどり
 紅葉ひとひら散る夕暮れの秋は女を弱くする 稲葉 建正
 紅葉名所は数々あれど里の裏山気が和む 田 哲人

※永瀬ちいさんは逝去されました。

シャンプー・カット・カラー・パーマ

福祉訪問理美容

「髪やつくば」

介護福祉士や理美容福祉師を
取得した理美容師が
ご自宅や病院・福祉施設等にご訪問!

お問い合わせは… **0120-294-381**

フリーダイヤル ぶくし サンパワNo.1

勉強がらくになるのは公文式!

はじめよう!

KUMON

ぜひ一度、
教室を見に
来て下さい。

真壁中央・十里・明野ピース・スフィア教室
代表 **0296-57-2969**
真壁中央・桜川市真壁町田52-4

乳幼児教室
小学生教室
中学生教室
高校生教室